

平成27年度家庭教育応援プロジェクト 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

◇日 時

平成28年1月21日（木）
13:30～16:40

◇会 場

三進金属工業(株)「緑正館」



県中域内では、県の事業である「地域でつながる家庭教育応援事業」の一環として、家庭教育の推進や地域教育力の向上に向け、親の学びの支援や企業による家庭教育支援への協力に向けた実践に取り組んでまいりました。今回の開催にあたりましては、三進金属工業株式会社（平田村）に会場をご提供いただき『第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議』を開催することができました。三進金属工業株式会社の報告からは、企業の理念に基づいた地域交流・次世代育成や地域貢献の実践を学ぶことができました。

今回の会議では、PTAと連携した「親の学び」や家庭教育応援実践、参加者の皆様の所属団体での実践等のお話をいただき、「親子のふれあい・コミュニケーションのとり方」をテーマに、具体的手立てを深めることができました。また、子どもたちの将来に向けた家庭教育力の向上に向けて、委員の皆様からご意見をいただきました。

【出席者】

- 県中ブロック会議アドバイザー
- 家庭教育推進アドバイザー
- 郡山市PTA連合会副会長
- 岩瀬地区PTA連合会長
- 石川郡連合PTA会長
- 田村地方PTA連合会長
- 郡山市子ども会育成連絡協議会長
- 郡山市片平地区主任児童委員
- 石川町主任児童委員
- 家庭教育支援県中協議会会長
- 須賀川市中央公民館長
- 郡山警察署生活安全課専門少年警察補導員
- 石川町立野木沢小学校長
- 三進金属工業株式会社 総務部総務経理課 係長
- 県南教育事務所社会教育担当者2名（オブザーバー）



【日 程】

時 間	内 容	
13:30～	開会行事	○主催者あいさつ（次長） ○事務連絡
13:40～	親子の学び応援講座について	○実践報告・質疑 ◇玉川村立いずみ幼稚園・田村市立大越小学校の実践 ◇石川町立野木沢小学校の実践（野木沢小学校長より） ○事業の課題と次年度に向けて
14:15～	家庭教育応援企業について	○推進状況 ○企業紹介・実践報告（三進金属工業株式会社より）
14:50～	子どもの体力の現状と課題について	○報告（県中教育事務所指導主事より）
15:20～	協 議（1）	○課題解決に向けて本地区の取組みについて ○推進委員の活動紹介
15:45～	協 議（2）	○親子のふれあい・コミュニケーションのとり方について
16:25～	協 議（3）	○家庭教育応援企業推進活動について
16:30～	協 議（4）	○次年度の方向性について
16:40～	閉会行事	○御礼のことば ○諸連絡

親子の学び応援講座について

◇実践報告

【石川町立野木沢小学校長】

『テーマ』 「親子の学び応援講座」に関する取組

『目的』 子どもたちのより良い成長のために親自身が果たすべき役割について学ぶ講座をPTAと連携して開設し「親の学び」を支援する。

『実施日』 平成27年9月19日（土）10:50～11:45

講 師：駒谷 真美氏 昭和女子大学大学院生活機構研究科 人間教育学専攻
同大学 人間社会学部 初等科教育学部准教授

演 題：「楽しく上手にメディアとつきあうコツ」

～メディアルールを作ってみよう！～

- SNS使用の危険性→短い文章でのやり取りで、相手に自分の気持ちがうまく伝わらなかったことからおこるいじめ問題
- オンラインゲームの危険性→ゲームで知り合った相手によるなりすまし被害
- 写真を送ることの危険性→画像の加工、ネット流出、拡散、デジタルタトゥー
- ルールづくりが大切！
時間を決めて使う、直接言えないことは投稿しない、写真は送らないなど。

『メディアコントロールの取組』

① 「ふくしまっ子チャレンジカード」の活用

家庭での様子をカードに記入し活用→形式的にならないよう、数人の班で校長室で家庭の様子について懇談をした。

② 「『いしかわのじかん』推進宣言」推進強化

『い』	いえどく（家読）の時間	※保護者には	○子どもの勉強をみてあげる
『し』	しずかなじかん		○子どもの話に耳を傾ける
『か』	かぞくのじかん		○子どもと一緒に読書をする
『わ』	わたしのじかん		○子どもと一緒に何かをつくる

- 石川町のPTAが連携して、「いしかわの時間」をホームページに掲載して活用している。
- 「長期の休みは、約束ごとを決めてやりましょう！」で実施する。
- 子どもたちは、非常に元気で健やかに育っているが、メディアコントロールは必要なので大人がしっかりしなくてはならない。

親子の学び応援講座について

◇質疑・感想等

- 1学年から3学年までは別室で読み聞かせを行い、4学年から6学年と保護者を対象に実施したが、世代の違いや専門用語等で子どもと大人と一緒にやるのは難しい。下学年・上学年・大人と別々にやるのが良い方法ではないか。
- 講演の先生の話し方が、子どもに楽しく聞けるよう配慮されていたので良かった。
- 私の地区でも、機会があれば講演を聞きたい。
- メディアコントロールは重要な課題なので、来年度も継続していきたい。
- メディアコントロールは、保護者を巻き込んでやるのが難しい状況。メディアの怖さは親子で分かっているが、親子で学ぶ機会があまりない。
- 玉川村では、親子のふれあう運動があった。活動することで何か感じることもある。
- 生活上の様々な場面で子どもたちの気になる面がある。行政の福祉課など関わっていく事もあるので家庭教育は難しい面もある。それぞれの立場で工夫するが、実践は難しい場合もある。
- メディアコントロールの講演は、昨年参加している。先生による話し方の違いで心への響き方が違ってくる。
- 今年で3年目になるが、メディアコントロールの考えが浸透するよう継続してほしい。
- 講師の選考・確保が難しい。

家庭教育応援企業について

◇事務局より趣旨と内容説明

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、社会的なルールやマナーなどを身に付ける上で、重要な役割を担っている。子どもは成長に従って、生活の様々な面で学ぶことになるため、日常生活そのものが家庭教育であり、学校では教わらない事柄を生活を通して覚えていく。未来を担う子どもたちを社会全体で育てるためにも企業の方々の応援は必要である。

企業の家庭教育の推進状況について、家庭教育応援企業登録の三進金属工業から取組状況報告があった。

三進金属工業株式会社の企業紹介・実践報告

◇総務経理課 係長 岩田 慎治氏より内容説明

- 会社概要：本社 大阪府泉北郡忠岡町新浜2-5-20
福島工場 福島県石川郡平田村大字西山字煙石101
2001年4月 第一工場竣工
2014年11月 緑正館開所
主要製品は電動式・手動式ラック類、ソーラー架台、植物工場システム、立体駐車場など。
従業員数は180人（平田村が80人、その他は須賀川・郡山から）
- 工場見学：2015年5月～11月の期間
蓬田小学校・小平小学校・すがま幼稚園・蓬田中学校・福島高専・石川高校・はなさと保育園が工場見学や職場体験に来ている。
- 社内行事：2015年6月～10月の期間
クリーン作戦（清掃活動）・本田知美のミニコンサート・親子で楽しむ自然教室・HEART&SOUL コンサート・真木ことみのコンサートを開催。
- 緑正館は、学校・地域の方々が使用できる地域交流・地域活性化のための施設。
- 様々な活動を通して、従業員の親子のふれあいができ、家庭教育の応援ができた。
- 人口が減少ぎみなので、活動を通して子どもたちに弊社を知ってもらい、大人になって地元に戻った際に働いていただきたい。
- 次年度は、障害者の自立支援にも関わりたい。

〈質問・要望〉

- すばらしい施設なので、公民館事業でも来訪したい。
- ここまで来るのに迷ってしまったので、途中に看板を設置して欲しい。



子どもの体力の現状と課題について

◇事務局より趣旨と内容説明

子どもの体力は、全国的には昭和60年頃と比べて低下している。また、体力が高い子どもと低い子どもとの差が広がっている。本県においても同様の傾向がみられることから、県教育委員会では、平成22年度より子どもの体力向上支援委員会を設置し、子どもの体力について調査や研究を行い、体力を向上させるための方策について検討を重ねてきた。

体力を向上させるためには、子ども一人一人に望ましい運動習慣、食習慣、生活習慣を身に付けさせることが重要である。そのために子どもや家庭、学校がそれぞれに取り組んでいかねばならない。生涯にわたって運動に親しみ、健康で明るく豊かな生活を送ることができるようするために、今できることから、さらに一歩前へ踏み出し、みんなで取り組むことが大切である。

- 運動に親しむ習慣が必要。
- 食との関係も重要で、朝食をとる子どもは学習の理解力が高く、毎日朝食をとる集団は食べていない集団に比べて体力合計点が高く、肥満傾向児の出現率が低い。
- なぜ体力が低下してきたか？～子どものときの父親とのかかわりや遊びの経験～
 - ① 子どもたちと父親とのかかわりはどうか？
 - ② 我々の子どもの頃の遊びは？

※体力低下の背景は、子どもの多様な動きを含む遊びの経験が少ない。
- 本県の児童・生徒の体力・運動能力向上のための取組について。
 - ①学校における取組。
 - ・体育、保健体育授業、保健学習・保健指導の充実と食育の推進、教員の指導力向上など。
 - ②地域や家庭との連携を図った取組。
 - ・運動機会の確保、基本的な生活習慣の確立、「自分手帳」の活用。

協議1 課題解決に向けた本地区の取組について

〈家庭教育応援プロジェクト（県中版）について〉

- 今年度は100社程度を訪問し、現在67社の企業の登録がある。
- メールを配信しながら登録企業に文科省の「早寝・早起き・朝ご飯」県教委の「十七字のふれあい」事業の情報提供を行ってきた。
- 県南地区では、青年会議所の会議に出向いて登録企業を増やした。（県南教育事務所より）

〈家庭教育推進〉

- 地域の寺子屋ということで、郡山市教育委員会の取組として地域公民館や日大と連携し様々な遊びを学ぶ機会をつくり開催している。おやつ付きで昼食をつくりながらも実施した。
- 地域の子ども会、または子ども育成会で、「早寝・早起き・朝ご飯」を推進している。

〈メディアコントロール〉

- 石川町では、情報モラル講座で様々な情報を親が知ることができた。子ども向けの講座を開催して、活用に対する改善のきっかけになればよい。子どもの携帯・ゲームの使い方は、親から言わなければ改善しない。家庭でのルールづくりが重要である。
- SNSで、顔を見たこともないのに、遠くから県内の子どもに会いに来る子どもも増えている。

〈各PTAでの取組〉

- 東北PTA連合会、県の連合会に出席して幅広い交流ができた。学力向上の具体案も出て、学校任せではなく、親が宿題の点数をつけることにより学力向上に貢献している。
- 地区のPTAで、年一回の発表会を開いて、メディアコントロールなどの勉強会を行ってきた。

協議2 親子のふれあい・コミュニケーションのとり方につて

〈親子の学び応援講座への取組〉

- 公民館事業で、親子のふれあいの場として「成田空港ツアー」を行い、現地でのオールフリーの企画を開催した。迷子もなく親子のコミュニケーションが図られた。
- 放課後子ども教室で、遊びのコーチを招いて講座を開催したい。
- 親子が一緒に何かをやることで、昔のような遊びを思い出して、親子の学びを深めたい。

〈地区として効果が期待できる取組について〉

- 放課後子ども教室のボランティア活動から、親子が参加できる行事を開催して、子どもとふれあい機会をつくっている。
- 平田村では、蓬田岳の登山教室を行い、親子のコミュニケーションが図られた。



協議3 家庭教育応援企業推進活動

〈募集活動〉

- ホームページにもアップして情報を配信していく。

〈事業を広めていくための取組について〉

- 次年度は、青年会議所や商工会議所等と協定を結ぶことも検討したい。
- P T A連合会の中に、企業の役員の方もいるので、年に一回の総会に出席し家庭教育応援企業についてP Rすれば良い。

協議4 次年度の方向性について

〈メディアコントロール〉

- 児童クラブの活動において、開設当初はT V漬けの環境から抜け出せなかった子どもたちが、日々の遊びでのふれあいが楽しくなって、メディアばなれができた。子どもには、人とのふれあいの大切さを遊びを通して根気よく教えた。
- 親子のふれあいによってメディアコントロールにつながる。その機会を増やしていきたい。
- 「T Vをつけるのは簡単！消す勇気をもとう！」をスローガンに掲げていきたい。

〈子ども達を健康に導く運動プログラムの活用〉

- 体力低下は、体育の時間だけでなく、放課後子ども教室を利用して、体力増進を図っていききたい。
- 福島県の実態は体力が増進していない現状である。親子で小さいころから遊びをすることで、改善を図りたい。スポーツ選手への夢なども大切に育みながら、学校の体育の時間だけでなく運動をする機会を与えたい。
- ラジオ体操を復活させるのも良いと思う。
- お母さんが元気でなくては、子どもたちを元気にできないので、お母さんの悩み相談支援をする。
- 家庭の様子が多様化している現在、食育もままならない状況もあるので、子どもの食育の事業に力を入れたい。

